

平成16年度

独立行政法人

海上技術安全研究所 講演会 (第4回)

日時 平成16年11月12日(金) 13:00～17:00
(受付は12:15～)

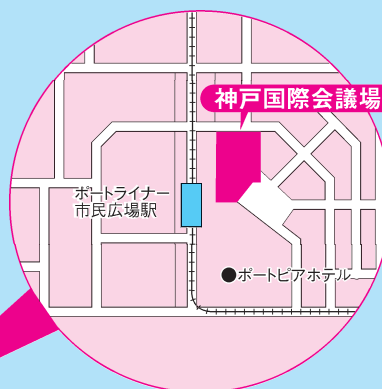
会場 神戸国際会議場 5F-501会議室
(兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1)

入場
無料

●会場案内図



神戸市中央区港島中町6-9-1
TEL 078-302-5200



●交通のご案内

- ◆関西国際空港 …… 空港リムジンバスで65分(神戸三宮間下車)
- ◆大阪(伊丹)空港 … 空港リムジンバスで約40分(阪神高速生田川ランプ下車)
- ◆新幹線 …………… 新神戸駅から車で15分、地下鉄とポートライナーで約15分

お問い合わせ



独立行政法人

海上技術安全研究所 (<http://www.nmri.go.jp>)

企画部研究情報センター 広報・国際係 (info@nmri.go.jp)

TEL:0422-41-3005 FAX:0422-41-3247

「テクノオーシャン'04」展示会のご案内

海上技術安全研究所では、以下のとおり講演会と並行して「テクノオーシャン'04」展示会に模型、パネルなどを出展しておりますので是非お立ち寄り下さい。

- ◆日時:平成16年11月10日(水)～12日(金) 9:00～17:00
- ◆会場:神戸国際展示場 2号館 1階 Booth No.49(神戸市中央区港島中町6-11-1)

TEL 078-303-7516 FAX 078-302-1870

海上技術安全研究所講演会のご案内

謹啓 皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当研究所は、平成13年に独立行政法人となって以来、着実に研究開発を進めてきておりますが、これら研究開発テーマの中から、造船会社・船用工業メーカーの皆様はもとより、船主の皆様にも関心が高いと思われるものをご紹介させて頂きたいと存じます。

ご多用中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜り、忌憚のない意見と励ましのお言葉をいただきたくご案内申し上げます。

謹白

独立行政法人 海上技術安全研究所理事長 中西 堯二

◆講演会プログラム

時間	項目	タイトル・担当・概要
12:15-	受付開始	
13:00-13:15	理事長挨拶	
13:15-13:45	特別講演	「21世紀の船舶海洋技術の展望と産学官の連携」 日本造船学会副会長／大阪大学教授 富田康光 我が国の造船業は、2003年度には新造船受注量・建造量が過去最高の水準となるなど長い不況を抜け出しました。一方、我が国にもまして、韓国は建造量・受注量を誇り、また、中国も造船におけるシェアを増やしつつあります。このような状況の中、21世紀に渡って我が国造船業が世界のリーダーたり得るための船舶海洋技術の課題を展望するとともに、産学官の連携の必要性について述べます。
13:45-14:25	講演①	「IMOの動向と海技研の研究」 研究統括主幹(国際基準担当) 吉田公一 国際海事機関(IMO)では、SOLAS条約における検査用足場に関する規則の改正を今年5月に採択しました。また、バルクキャリアの安全性強化のためのSOLAS改正を今年12月に採択する予定です。さらに、MARPOL条約におけるタンカーの二重船殻化の促進のための規則改正を昨年12月に採択し、現在は燃料タンクの防護に関する規則改正を審議しております。その他、GMDSSの見直し、バラスト水規制、テロ対策など、最近のIMOを巡る国際動向と関連の海技研の研究について概説するとともに、将来の規制動向を展望します。
14:25-15:05	講演②	「FRP廃船の再利用方法等を開発ー放置FRP船対策への決め手にー」 輸送高度化研究領域 新材料利用研究グループ 秋山 繁 及び 環境・エネルギー研究領域 環境調和型生産技術研究グループ長 田中義照 近年増加傾向にあるFRP(fiber reinforced plastic: 繊維強化プラスチック)船の海洋不法投棄、放置艇の沈没船化等の社会的問題に対処するとともに、循環型社会の構築や資源の有効活用の社会的要請に答えることが必要となっています。そのため、FRP廃船を解体、破砕して、そのFRP破砕片をセメントの原燃料として利用するリサイクルシステムを確立しました。また、FRP船のメインハル自体を分割可能なパーツに分けて作成し、接合部をブロック継手という新しい方法で接合するリユース可能な「FRPブロック接合船」、及び超音波を利用してFRP船体の劣化状態(層間剥離)を検査する「携帯型劣化診断装置」を開発しました。なお、本研究は国土交通省の委託研究として平成12年度から15年度に渡って行われたものです。
15:05-15:20	休憩	
15:20-15:50	講演③	「二重反転ポッドプロペラ遂に完成ー実機ドック内試験報告ー」 スーパーエコシップ プロジェクトチーム 企画調整グループ長 加納敏幸 次世代内航船(スーパーエコシップ)に関する研究開発を、国土交通省からの委託を受け平成13年度から進めています。本年、ナカシマプロペラ(株)等の協力を得て二重反転ポッドプロペラが、完成し実機試験を本年7~8月に実施しました。果たして、計画通りの性能を発揮するか、その結果の速報についてご紹介します。ポッド推進器により離着陸操船に優れた船舶が実現し、また、開発された要素技術は、電気推進船などに幅広い応用が期待されています。
15:50-16:20	講演④	「社会に貢献する海上技術安全研究所の研究ー最近の受託研究・共同研究の成果からー」 研究統括主幹(外部資金民間担当) 千田哲也 海上技術安全研究所では、民間企業や国のご要望にお応えて受託研究や共同研究を実施しています。本講演では、最近の受託研究・共同研究のなかから民間企業の製品開発につながった研究や規制緩和につながった研究などいくつかを選び、関係者の理解を得て研究内容と成果の活用事例についてご紹介します。
16:20-17:00	講演⑤	「浮体式洋上風力発電の開発」 海洋開発研究領域 海洋資源利用研究グループ長 大川 豊 地球環境問題の顕在化と化石燃料の枯渇問題を抱える中、人類が持続可能な発展を維持していくためには、再生可能エネルギーを基幹エネルギーとする社会を構築する必要性が叫ばれています。風力発電はその担い手の一つとして注目され、世界的に急成長を遂げています。我が国では陸上における風車設置適地は限られており、洋上への進出が期待されていますが、そこでも地形的制約から浮体式にならざるを得ない状況にあります。浮体式洋上風力発電を成立させるための要素技術課題、浮体構造物の形式と特徴、化学燃料への変換を含むエネルギー利用法および新エネルギー社会を取り巻く情勢など、(独)鉄道建設・運輸施設整備機構の公募研究でこれまでに得られた成果を概説します。